

平成30年度第1回地域医療構想調整会議における議論においては、各区域に共通する課題と構想区域個別の課題が見られた。それぞれテーマを設定し、今後の調整会議における議論に役立てる。

1 共通の課題

○急性期治療後の転院、在宅医療への円滑な移行のための方策

2 構想区域ごとの課題

構想区域	区域別課題
区中央部	○構想区域における急性期治療後の回復期・慢性期治療のあり方の検討 ○各病院と開業医の間での機能・特徴等の情報共有 ○患者の高度急性期、急性期における流入、回復期、慢性期における流出を考慮した検討
区南部	○在宅医を含めた開業医と病院の退院調整部門の連携強化 ○在宅療養患者の急変時等に対応・受入できる体制づくり
区西南部	○サブアキュート受入促進のために必要とされることの検討 ○サブアキュート受入れで想定される患者像別の対応方法
区西部	○各病院情報の共有（各病院の特徴や受入れ条件等） ○ICTツールの活用・ネットワーク化による連携強化
区西北部	○サブアキュート受入促進のために必要とされることの検討
区東北部	○中小病院が多い区東北部において、お互いの医療機能を分担し、補い合うために必要な方策
区東部	○在宅療養患者や高齢者の急変時等に対応・受入できる体制づくり ○入退院・転院支援体制の強化と人材育成
西多摩	○二次・三次・診療科別急性期医療機能分担をどう行うか。 ○サブアキュート受入促進のために必要とされることの検討 ○他の地域から多く流入している慢性期等の患者の在宅復帰に向けた取組
南多摩	○在宅療養患者の急変時等の受入先確保
北多摩西部	○サブアキュート患者の受入れ促進と円滑な在宅復帰に向けた医療従事者の育成
北多摩南部	○急性期治療後の円滑な回復期等への転院や在宅移行（小児在宅移行含む） ○サブアキュート対応含む在宅医へのバックアップ体制の充実
北多摩北部	○独居老人や老老介護、重症の慢性期患者などへの対応 ○在宅療養患者の急変時等の対応